

船舶事故調査報告書

平成23年9月8日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委 員 横 山 鐵 男（部会長）
 委 員 山 本 哲 也
 委 員 石 川 敏 行

事故種類	乗組員死亡	
発生日時	平成22年4月3日 13時10分ごろ（現地時間）	
発生場所	ペルー共和国カヤオ港北西方沖の太平洋 （概位 南緯11°04′ 西経79°30′）	
事故調査の経過	平成22年10月19日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 漁船 第二十一^{いなり}稲荷丸、349トン</p> <p>船舶番号、船舶所有者等 130516、個人所有</p> <p>L×B×D、船質 63.50m (Lr) × 10.60m × 7.00m、鋼</p> <p>機関、出力、進水等 ディーゼル機関、1,323kW、昭和62年8月</p>	
乗組員等に関する情報	<p>船長 男性 57歳</p> <p>三級海技士（航海）</p> <p>免許年月日 平成11年12月1日</p> <p>免状交付年月日 平成21年7月8日</p> <p>免状有効期間満了日 平成26年11月30日</p> <p>甲板員A（インドネシア共和国籍） 男性 26歳</p>	
死傷者等	死亡 1人（甲板員A）	
損傷	なし	
事故の経過	<p>本船は、船長ほか28人（日本国籍7人、インドネシア共和国籍10人及びペルー共和国籍11人）が乗り組み、ペルー共和国カヤオ港北西方沖の太平洋で、いか釣り漁の漁場を探査しながら航行中、平成22年4月3日13時10分ごろ、船尾甲板で休憩していた甲板員Aが、船尾甲板左舷の舷側に立って小用を足し始めた際、バランスを崩して落水した。</p> <p>本船は、甲板員Aが落水後、3日間にわたって捜索を行ったが、甲板員Aは、行方不明となり、のちに死亡認定された。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 南東、風力 3、気温 約20.1℃</p> <p>海象：水温 約25.2℃</p>	
その他の事項	<p>船尾甲板右舷側で休憩していた他の甲板員は、甲板員Aが落水するのを目撃した。</p> <p>甲板員Aは、救命胴衣を着用していなかった。</p> <p>甲板員Aは、泳ぎが不得手であった。</p>	
分析	乗組員等の関与	あり
	船体・機関等の関与	なし
	気象・海象の関与	不明

	<p>判明した事項の解析</p> <p>本船は、カヤオ港北西方沖の太平洋上を航行中、甲板員Aが、船尾甲板左舷の舷側で小用を足していたところ、バランスを崩したことから、落水して行方不明となった可能性があると考えられる。</p> <p>甲板員Aが、船内便所を利用していれば、本事故の発生を回避できたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、カヤオ港北西方沖の太平洋上を航行中、甲板員Aが、舷側で小用を足していたところ、バランスを崩したため、落水したことにより発生した可能性があると考えられる。</p>